

(別添1)

【忠岡町】

端末整備・更新計画

|                     | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|-------|--------|
| ① 児童生徒数             | 1,126 | 1,100 | 1,081 | 1,063 | 1,043  |
| ② 予備機を含む<br>整備上限台数  | 1,294 | 1,265 | 1,243 | 1,222 | 1,199  |
| ③ 整備台数<br>(予備機除く)   | 0     | 1,100 | 0     | 0     | 0      |
| ④ ③のうち<br>基金事業によるもの | 0     | 1,100 | 0     | 0     | 0      |
| ⑤ 累積更新率             | 0%    | 100%  | 100%  | 100%  | 100%   |
| ⑥ 予備機整備台数           | 0     | 165   | 0     | 0     | 0      |
| ⑦ ⑥のうち<br>基金事業によるもの | 0     | 165   | 0     | 0     | 0      |
| ⑧ 予備機整備率            | 0%    | 15%   | 0%    | 0%    | 0%     |

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値

(端末の整備・更新計画の考え方)

令和2年度に整備した1,336台について、令和7年度に更新を行う。

令和7年度の整備台数は児童生徒数1,100台(見込み)と予備機の上限である165台の合計1,265台とする見込みである。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：1,336台

○処分方法

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 0台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者へ再使用・再資源化を委託 : 1,336台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者へ再使用・再資源化を委託 : 0台
- ・その他( ) : 0台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

- ・自治体の職員が行う
- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール(予定)

新規機器導入より1ヶ月後までに、使用済端末の事業者への引き渡し

○その他特記事項 特になし

(別添2)

【忠岡町】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

学校数：小学校2校、中学校1校（計3校）

必要なネットワーク速度が確保できている学校数：3校（100%）

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

現段階でベンダーとも確認の上、ネットワークアセスメント、及びネットワーク速度

の確保に向けた対応の必要性はないと考えている

(別添3)

## 【忠岡町】

### 校務DX計画

令和5年3月文部科学省で、GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議の提言（GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高速化を目指して～）をとりまとめ、次世代の校務DXの方向性が示されたところである。

ここでは、現在の校務情報化の課題、今後数年にかけて次世代の校務支援システムの整備やクラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用といった次世代の校務DXの方向性、今後取り組むべき施策が記載されている。

忠岡町として、教職員の働き方改革の検討は急務となっており、校務のDX化を進めることにより、教職員の働き方改革を促進していきたい。

#### 1. 校務DXの推進について

校務DXの推進に向け、教職員のICTの知識の向上や授業・家庭学習用ドリルのICT活用を促進するため、研修を実施し、利活用を促進していく。また、研修・会議における資料等の提供については校務用端末や情報共有ツールを利用し、ペーパーレス化を促進していく。

#### 2. 押印やFAXの廃止について

押印やFAXの廃止については文部科学省や大阪府より通知されており、学校に周知しているところである。学校現場に関する押印のルールの見直しを進め、押印がなくても書面を受け付けられるようにする、押印を求めないようにする等、押印が真に必要な場合を除き、押印の廃止を

推進していく。またFAXについても、相手があるためのやむを得ない事情を除き、学校とのFAXでのやり取りの原則廃止を推進していく。

### 3. 保護者及び児童生徒へのICTを活用したアンケート等の実施について

アンケート等について、フォーム作成ツールを活用することにより、記入・提出の手間を省くとともに、集計作業の簡易化、ペーパーレスを推進していく。

### 4. 次世代の校務システムの導入について

現校務システムの更改のタイミングにおいて、ゼロトラストの考え方に基づきアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、校務系・学習系ネットワークの統合に向けて、調査研究をしていく。

### 5. 委員会・学校・ベンダーの連携

学校がDXやCBTでの不安や悩みごとがある場合には、委員会、ベンダーが相談や助言を行い、3者が緊密に連携していく。

(別添4)

## 【忠岡町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿」として、本町では、個別最適な学び、協働的な学び、家庭での充実した学びを推進していく。

個別最適な学びでは、生徒の理解度に応じた教材の提供や多様な学習の支援、町全体としての情報活用能力の向上を目指す。また、協働的な学びでは、授業支援システムを用いたリアルタイムでの情報共有やより質の高い教科横断的な学習を目指す。更に、家庭での充実した学びでは、日常的な端末の持ち帰りを実施し、AIドリルを用いた学習用ドリルのデジタル化を目指す。

#### 2. GIGA第1期の総括

忠岡町では、令和元年度に校務用端末、令和2年度に各小中学校のGIGA端末と通信ネットワーク整備を完了させ、教員向け研修についても順次行い、大きな混乱が生じることなく、これまで運用を続けているところである。またICT環境の整備についても、授業支援システムやAIドリル、指導者用デジタル教科書の配備等と推進していく。

しかし、学校間・教員間におけるICTの利活用やスキルの差が大きな課題となっている。また、家庭への日常的な持ち帰りについてもできておらず、長期休業期間でのみとなっている。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

本町では「1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿」、「GIGA第1期の総括」を踏まえ、次のように利活用を考えている。

#### 【個別最適な学び】

生徒の理解度に応じた教材の提供を進めるとともに、発達課題がある児童生徒に対して、撮影機能を用いた記録や自己理解、他者理解の助長、長期・短期の見通しをたてることができるようなプロアクティブな支援を推進していく。また、多様な登校の在り方へのアプローチとして、希望する児童生徒については校内の別教室を主として、授業の様子をリアルタイムで配信していく。

#### 【協働的な学び】

教科の特性を踏まえた上で、教員間の差を減らし、授業支援システムを用いたリアルタイムでの情報共有を行い、「児童生徒が論理的に自分の考えをまとめ、表現する授業」を推進していく。また教科の垣根をこえた教材の共有を端末のみで行い、より質の高い教科横断的な学習を推進していく。

#### 【家庭での充実した学び】

日常的な端末の持ち帰りを実施し、AIドリルを用いた学習用ドリルのデジタル化を推進していく。このことにより、即時採点を行うことができ、その場で自己の課題に向き合う時間を設けることができるとともに、AIドリルにより苦手克服に主体的に努めることができる考える。